



夏場の園庭開放について



連日30℃を超える暑い日が続いています！

さいたま市内の保育施設では園児が熱中症となる事例が発生しており、このことによりさいたま市よりお知らせがありました。これにともない、エンゼルクラブの園庭開放について、皆様にお知らせがあります。

正午(12時)の時点で、暑さ指数(WBGT) 31℃ 以上の場合、園庭開放を中止とします。

※(園庭利用可の場合のみ門扉にてお知らせします)

※(園庭をご利用中に、暑さ指数31℃を超えた場合、お声がけしますのでお帰り願います)

※子どもが大人より熱中症にかかりやすい原因は、

- 体温調節機能がまだ発達していない
- 体に熱がこもりやすく体温が上昇しやすくなる
- 全身に占める水分量が大人より高いため、

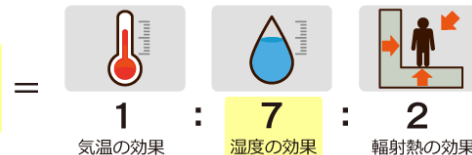
気温が体表温度より高くなると熱を逃がすことができないなどの原因があります。

お子さんの安全を第一に考え、ご理解・ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。



環境省 熱中症予防情報サイトより

暑さ指数
(WBGT)



暑さ指数(WBGT)が31℃以上の場合、

「運動は原則禁止」、「外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する」

28℃～31℃未満の場合は、

「**厳重警戒(激しい運動は禁止)**」「外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する」とあります。

「**警戒(積極的に休憩)**」「**注意(積極的に水分補給)**」

WBGT	日常生活での注意事項	熱中症予防のための運動指針
31℃以上 危険	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。	運動は原則中止 特別の場合以外は運動を中止するべき。
28～31℃ 厳重警戒	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	厳重警戒(激しい運動は中止) 熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10～20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。体力のない人や肥満の人、暑さに慣れていない人、暑さに弱い人などは運動を軽減または中止。
25～28℃ 警戒	運動や激しい作業をする際は定期的に十分な休憩を取り入れる。	警戒(積極的に休憩) 熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
21～25℃ 注意	激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	注意(積極的に水分補給) 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。

